

表現力の育成を目指したアクティブラーニング

副題

～テレビ電話機能を活用した遠隔交流授業～

キーワード 表現力 アクティブラーニング テレビ電話 遠隔交流授業

学校名 下田市立下田中学校

所在地 〒415-0037
静岡県下田市数根765番地の1ホームページ
アドレス

1 研究の背景

本校の生徒は数年前まで荒れかけていたが、教職員の意欲的な生徒との関わり合いによって、荒れかけていた生徒たちも少しずつ落ち着きを取り戻し、**授業や集会などで落ち着いて話を聞けるようになってきた**。平成28年度の生徒アンケートでも、「**授業中仲間や先生の話をよく聞いている**」という項目において**約90%の生徒が肯定的な回答**をした。一方で、「**授業中、自分の考えを自分の言葉で書ける**」という項目では、**肯定的な回答をした生徒は約80%いたものの**、「**授業中、自分の考えを発表できる**」という項目では、**肯定的な回答をした生徒は約60%**であった。これまで、日常生活においても**自分の思いをうまく伝えることができず、人間関係のトラブルに発展すること**もあった。以上のことから、**本校の生徒の課題は自分の思いや考えを伝える表現力である**といえる。そこで、今年度は本校生徒の課題である「表現力」を育成するために、**テレビ電話機能を活用し、生徒が自分の思いや考えを様々な形で表現するような授業実践**についての研究を行うことにした。

2 研究の目的

変化の激しい今日の社会では、学んだ知識や技能を活用して物事を考え、判断し、表現することにより、様々な問題に対応したり解決したりすることが求められる。

「表現力」は生徒にとって生きていく上で必要な力の一つである。その「表現力」を授業でより一層伸ばすためには、ただ教師の説明を聞くような授業ではなく、生徒が**自分の思いや考えを表現する場を設定していく**必要がある。しかし、これまでと同じ授業をするだけでは、生徒の力をより一層伸ばすことは難しいように思う。授業が変わるからこそ、生徒たちも変わっていくのだと考えるからだ。様々な形で生徒が自分の思いや考えを表現する場を設定し、自己表現に対する自信をつけさせたい。そこで、**表現活動を中心に授業を行っている英語や、討論・議論の授業を行っている国語、道徳**を研究の中心に据え、タブレット端末のテレビ電話機能を活用し、**海外の中学生と英語で交流したり、他校の中学生と討論の授業**を行ったりと、**これまでにない形で生徒が自分の思いや考えを表現する場を設定する**ことで、生徒の表現力をより一層高めることができると考えた。

本研究では、テレビ電話機能を活用して自分の思いや考えを表現するという、**これまでにない表現の場**

を設定することで、**生徒の表現力を高めることができるか**を明らかにしていきたい。

また、「**各教科における表現とは何なのか**」を、我々教師自身が捉え直す機会にもしたい。

3 研究の経過

① 時期	② 取り組み内容	③ 評価のための記録
5月 9日	・生徒の実態把握①	アンケート調査（生徒）
5月24日	・研究内容の共通理解 ・「表現力」についての話し合い	
6月21日	・ICT機器の操作についての研修①	
7月 3日	・生徒の実態把握②	アンケート調査（生徒）
7月14日	・第一回遠隔交流授業 「ニューポート市の学生と英語で交流しよう」	写真・観察記録（生徒） アンケート調査（生徒） 授業検討会（実践者・参観者）
9月27日	・ICT機器の操作についての研修②	
10月25日	・生徒の実態把握	アンケート調査（生徒）
12月 5日	・第二回遠隔交流授業（公開授業）（国語） 「他校の生徒と討論の授業をしよう」	写真・観察記録（生徒） 授業検討会（実践者・参観者）
12月 6日	・生徒の実態把握④	アンケート調査（生徒）
2月 1日	・テレビ電話で職業講話（総合）	写真・観察記録（生徒）
2月28日	・第三回遠隔交流授業（公開授業）（道徳） 「他校の生徒と議論しよう」	写真・観察記録（生徒） 授業検討会（実践者・参観者）

4 代表的な実践

(1) 「ニューポート市の学生と英語で交流しよう」

静岡県下田市では、「**コミュニケーション能力の素地を養う英語教育の推進**」を掲げ、毎年7月にニューポート市交流中学生派遣事業が行われている。毎年、本校から1名の生徒が参加しているが、その生徒の学びにしかなくなっていた。そこで、今年度は参加生徒にタブレット端末を持たせ、インターネット電話サービス「スカイプ」を通じて交信し、**他の生徒も現地の学生と交流する機会**を設けた。



現地の学生とテレビ電話が繋がると、生徒からは大きな歓声があがった。毎年5月に下田市で開かれる日米親善イベントの「黒船祭」や、**日本文化である「将棋」**の紹介を英語でスピーチした。ホームステイ先の学生から、「**下田はとても素晴らしい所だと思います。**」といった感想をもらい、生徒たちは満足そうな表情を見せた。

(2)「他校の生徒と議論しよう (道徳)」

テレビ電話を活用することで、他校の中学生と意見交換が可能となる。普段関わりのない生徒との授業なので、いつも以上に考えを練り上げ、言葉を精選する必要性を感じるだろう。本実践は、そういった意味でも表現力の向上が期待できる。

また、授業で討論や議論をする際、**多様な考え**に触れることは**生徒の見方・考え方を広げる**。普段聞くことができない他校の中学生の意見にも触れることで、**学びをより深められたら**と思う。

<授業の展開>

病気を完全に治す薬が開発されたが、薬は2人分しかない。次の4人のうち2人を救うとしたら、あなたはどの人の命を救うか。

(Aさん：50歳社長， Bさん：13歳中学生， Cさん：37歳主婦， Dさん：22歳大学生)



まず個人で考え、自分の意見を持たせた。着目生徒は、「**他の人よりも長生きができて、未来があるからBさんとDさんに使いたい。**」という意見を持った。その後、近くの仲間と意見交換をした。仲間の意見には、着目生徒と同じ意見と「**BさんとCさんに使う**」という意見があった。

授業の中盤にスカイプを活用して他校とテレビ電話を繋ぎ、交互に意見交換をした。他校の生徒の意見の中には、本校の生徒にはなかった「**Aさんを救うことは、Aさんの周りの人を救うことにもなる。**」という意見も



授業の終盤には「**〇〇という意見に納得した。**」のように**お互いの意見の良かったところ**を発言する生徒もいた。認められた生徒は満足そうな表情をしていた。授業後、「**うまく発表できなかった…。**」と悔しそうにしている生徒の姿もあった。

最後に授業の感想を記入した。着目生徒の感想には、「**最初はAさんを救うことは全く考えられなかったが、意見を聞いてその考えもあるなと思った。**」と書かれていた。

＜その他の実践＞「テレビ電話で職業講話（総合）」



生徒の職業観や勤労観を育むことを目的とし、生徒と同じ下田市出身で、Google で働いている方に職業講話をしていただいた。テレビ電話を活用して Google の社内の様子を見たり、Google という会社が「何を目的にどのような仕事をしているのか」といったことや、「中学生のうちにどのようなことをしておくとかよいか」といった話をしていただいた。現在の環境下になくような職業についての講話は、生徒が捉えている世界を広げたように思う。生き生きと働く方の講話は、生徒にとって**多くの学びと大人になることへの希望を得る場**となった。

5 研究の成果

「ニューポート市の学生と英語で交流しよう」では、代表生徒のみの発表となったが、他の生徒の感想には「**自分も話してみたかった。**」「**相手に英語が伝わるようスピーチ能力を高めたい。**」といった気持ちが綴られていた。このことから、生徒の**自己表現への意欲の高まり**が感じられた。また、**他校の生徒との討論・議論の授業**でも、「**また他校の生徒と討論の授業をやりたい。**」「**次こそ発表をしたい。**」という生徒がいたり、討論中にある生徒が自分の発表の番ではない時に「発表したいこと」が生まれたようで、発表をしたがっているような姿も見られた。授業実践後のアンケートでは、「**英語の学習への意欲が高まったか**」「**英語の学習が国際交流につながることを実感できたか**」という項目について、どちらも**およそ9割の生徒が肯定的な回答**をした。ネイティブの同年代の中学生と交流活動することで、自分たちの今の学びが**国際交流につながっているという実感**をし、**英語の学習に対する子どもたちの興味・関心**をより一層引き出すことができたように思う。

以上のことから、テレビ電話機能を活用して自分の思いや考えを表現するという**これまでになく表現の場を設定**することで、生徒の「**表現したい**」という意欲を高めることができたと考えられる。

また、普段と違う授業だったので、緊張をしたり自分をよりよく見せたいという気持ちが働いていたからか、遠隔交流授業後に「**うまく発表できなかった…。**」と悔しそうにしている生徒もいた。「**もっと大きな声でゆっくり話せばよかった**」「**意見がうまくまとまらなかった。**」といった後悔は、その生徒の**表現力を高めていくことに繋がる学び**である。このような**生徒の後悔も一つの成果**だといえる。

また、本実践は**生徒の見方・考え方を広げる**ことにも繋がった。

道徳の授業で、初めはBさんとDさんを救うという意見を持っていた着目生徒が、**他校の生徒のAさんを救う理由を聞いたことで**、「Aさんを救うという考え方は、初めは全く考えられなかったけれど、Aさんを救うことはその周りの人を助けることにも繋がるという考え方も一つだと思った。」という**考え方の変容**を見せた。

また、討論の授業後には「視野が広がった」「他校の生徒は資料がしっかりしていたので自分たちよりも説得力があった」という感想も見られた。自分の学級では触れることができなかった考えや表現の仕方を学べたことは、生徒にとって価値のあるものだった。

物事の見方・考え方が広がることは、自身の思考が深まることに繋がる。そして、思考が深まることで、より質の高い表現ができるようになっていくだろう。生徒の見方・考え方を広げることができたことも、生徒の表現力の向上に繋がる成果の一つだったように思う。

6 今後の課題・展望

(1) 学習環境の整備

遠隔交流授業において、発表者の声が聞き取りにくかったため、授業の流れが止まってしまうことがあった。発表者の声を拾うマイクと、声を大きくするスピーカーを整備することで、よりスムーズな受け答えが可能となり、討論や議論の質を高めることができる。生徒にとってよりよい学びを生み出せる学習環境を整えたい。

(2) どの生徒にも発表する場を保障すること

遠隔交流授業では、時間的にすべての生徒が発表することは難しい。したがって、自分の考えを持って、全体の場で発表する機会をすべての生徒に保障することはできなかった。

生徒アンケートでは、「自分の考えを書く」という表現については、数値も伸びていたが、「自分の考えを発表できる」という項目については伸びが見られなかった。

	7月	12月
授業中、自分の考えを自分の言葉で書ける	81.4%	87.9%
授業中、自分の考えを発表できる	67.2%	66.7%

本校生徒の発表する力を伸ばすことは、今後の課題の一つである。遠隔交流授業だけでなく、日々の授業においても、全体の場だけでなくペアや小グループなどをうまく活用して全員に発言する機会を保障し、力を伸ばしていきたい。

遠隔交流授業を行う際、相手校との日程の調整と授業内容の打ち合わせが必要になる。そこに、多少負担を感じるかもしれない。しかし、今回の実践を通して校内だけでは得られない学びを生み出せる可能性を感じた。討論や議論のテーマが、生徒にとってより切実感のあるものにできると、より効果的な授業実践となるだろう。

生徒数が年々減少し、近隣の学校では単学級の学校も増えている。そのような中で、本校は数年後市内の中学校との統合を控えている。テレビ電話を活用し、授業だけでなく生徒会活動など様々な形で中学校間の交流を図ることは、今後も必要なことだと考える。

また、普段面識のない人の前で発表したり、様々な考えに触れたりすることができる本実践は、本校のみならず他校の生徒にとって貴重な学びの場になるだろう。今後も、よりよい授業実践を提案し、研究していきたい。

7 おわりに

今年度の4回の遠隔交流授業だけでは、**これまでにない表現の場を設定することが、生徒の表現力を高めることにつながるか**が明らかにはなつたとはいえない。しかし、今までに経験したことのない今回のような授業は、生徒の学ぶ意欲を高めたり、様々な考え方に触れたりでき、**生徒にとって魅力的で、新たな学びを生み出せる**ことがわかつた。

本校で実施しているハイパーQ Uにおいても、どの学年も**学習意欲**や**ソーシャルスキル**のいくつかの項目で**向上的変容**が見られた。これは、今回の研究を通して、教職員が一つのチームとなって日々の授業や学級・学年経営にあつたことの成果だと思ふ。

I C T環境を整えることから始まり、苦勞も多かつた一年間だったが、ニューポートの学生とリアルタイムで通信できた時の**生徒の感動した表情**や、職業講話に刺激を受け、「**自分も将来への希望を持たずにはいられない。**」という生徒の声を聞いた時に、「やつてよかつた!」と思へた。

また、今回パナソニック教育財団からの助成を受けたことで、**教科指導におけるI C T活用**や**情報教育**など、**学校情報化のレベルが高まつた**ことが学校情報科診断システムより明らかになつた。これは、生徒にとつても我々教員にとつても大きな進歩であつた。

最後になりましたが、I C T環境を整えるためにご尽力して下さつた下田市教育委員会のみなさま、本研究に快く協力して下さつた近隣の中学校のみなさま、そして、本校教職員に深く感謝致します。

8 参考文献

- ・ 文部科学省 「遠隔学習導入ガイドブック2016『人口減少社会におけるI C Tの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業』の成果をふまえて」 第1版